

No.	薬 剤 名 〔種類名〕 〔商品名〕	剤 型	有 効 成 分 ・ 含 有 率	委 託 者 名	対象芝生名	試験のねら い と 処 理 方 法	新 継 別 前 回 判 定	試 験 場 所	今 回 判 定 結 果	判 定 理 由 ・ 内 容 ・ そ の 他
2.	アトニック (つづき)		・オルソニト ロフェノール ナトリウム 0.2% ・パラニトロ フェノール ナトリウム 0.3%					調 研、 (5)		再検討。
3.	GW-7 〔生育調 節剤、 ヒロバ トール〕	水容	マレイン酸ヒ ドラジッド コリン塩 30%	三菱瓦斯化 学 (株)	芝 一 般	芝生の抑草、 草丈の抑制 による刈込 回数省力化、 〔生育中散 布〕	新	東京農試、日 本緑営芝研、 小金井CC、豊 田CC、植調研。 (5)	継	薬害と薬量、 処理時期、芝 の種類との関 係について。
4.	サスター 〔サスター〕	液	N-(2,4ジメ チル-S-[[[1,1,1-トリ フルオロメチ ル)サルフォ ニル]アミノ] フェニル)アセ トアミド 48%	日産化学工 業 (株)	芝 各 種	芝の生育抑 制による刈 取回数減、 〔生育中散 布〕	継 継	柏GC、相模 原GC、程力 谷CC、にの みやCC、西 日本グリーン 研。(5)	実	実: 500 倍、 100ml/m ² (6月まで、 ノシバ対 象)。

外 国 文 献 抄 録

Chemical control of perenial nutsedge
(*Cyperus rotundus* L.) in tropical upland
-rice

L. I. OKAFOR & S. K. DEDATTA

ハマスゲ (*Cyperus rotundus* L.) は熱帯地
方の陸稲栽培において強雑草として知られ、強
い雑草害を招来し、直播で41%、ドリル播きで
43%もの減収を招いていることが判明した (19
74)。これはハマスゲの増殖生態と、発生が陸
稲の発芽と同時に少しく前にあるという最も競

合の起こり易い事実起因する。ハマスゲの外
にノビエや広葉雑草も発生して害を及ぼす。こ
れまでに、陸稲畑のハマスゲに対しては、かな
り有効な若干の除草剤が報告されているが、陸
稲の収量を確保する見地から検討されなければ
ならない。

著者らは 1973、乾季と雨季の二回に亘って、
除草効果と作物安全の観点から除草剤による試
験を実施した。

(1) 乾季 IRRIの埴壤土畑地圃場にて、品種
は生育日数 120日の IR-422-2-58 を用い、次の

表 1. 除草剤処理並びに薬害・雑草抑制効果

No	除 草 剤 処 理	施 用		薬害	雑 草 抑 制		
		成分kg/ha	発芽後(日)		イネ科	広葉	多年生
1	K-223-butachlor-bentazone	10.0	7be	1	3	3	2
2	" — " — "	8.0	be	1	3	3	2
3	" — "	10.0		1	4	4	2
4	" — "	8.0		1	2	2	2
5	" — " — "	6.0	7be	1	3	3	3
6	Butachlor-bentazone	2.0-2.0	7be	1	3	3	3
7	Butachlor-MBR8251	2.0-2.0	7MBR	2	4	4	3
8	K-223-butachlor	6.0		1	4	4	3
9	Butachlor-mecocrop	2.0-1.5	14mec	3	4	4	3
10	Butachlor-mecocrop	2.0-1.0	7fen	2	4	4	4
11	K-223-butachlor-bentazone	4.0	7be	1	4	4	4
12	" — "	4.0		1	4	4	4
13	" — " — "	2.0	7be	1	4	4	4
14	" — "	2.0		1	4	4	4
15	Mecocrop	1.5	14	3	4	4	3
16	Fenoprop	1.0	7	2	4	4	4
17	MBR8251	2.0	7	2	4	4	3
18	Bentazone	2.0	7	1	4	4	3
19	Hand weeding	2回	15,30	1	1	2	2
20	無 処 理			—	5	5	5

註：① 1～5, 11～14 でbutachlor, bentazone の薬量はそれぞれ2.0kg/ha.
 ② 施用時期：K-223 播種前, 第1回ロータリー耕後, butachlor 播種後3日.
 ③ 薬害：1 無害→5 作物枯死.
 ④ 雑草抑制：1 極大→5 無効.

prop, Mecocrop, Butachlor. これらの中のいくつかは組み合わせ使用した。使用量・使用時期を表1に示した。また, 同表に薬害と抑草効果を見ることのできる。図1には, ハマスケのm²当り残存本数と陸稲の収量の関係を図示した。試験の結果によると, K-223は多年生雑草の抑制に選択的卓効を示した。成分8.0および10.0kg/haで作物に被害なく, 完全にハマスケを抑制した。陸稲の最高

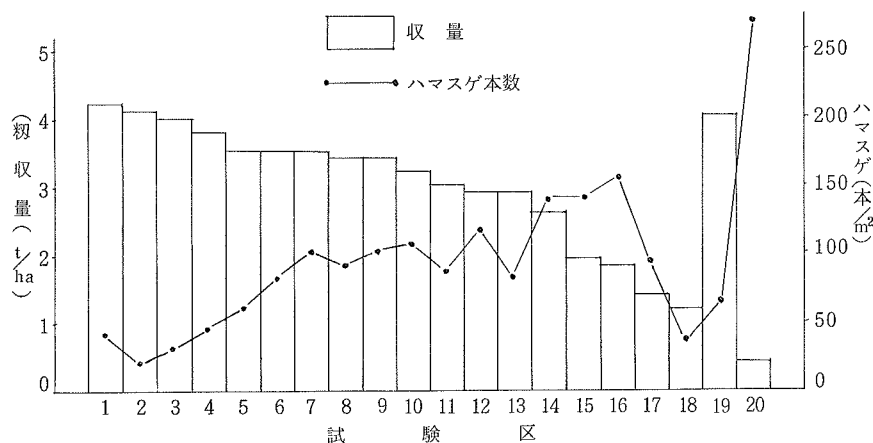


図 1. ハマスケの薬剤防除効果と陸稲の収量 (作図)

収量 4.2t/ha は, K-223 を播種前土壌混和し, 播種3日後に butachlor 2.0kg/ha, 陸稲出芽7日後に bentazone 2.0kg/ha を施した区であった。ハマスケをかなり抑制しながら陸稲の収

ような除草剤を使用した。

K-223-N-(α, α -dimethylbenzyl)-N'-P-toryl urea, Bentazone, MBR8251, Feno-

量が低かった MBR 8251, および bentazone 単用区では, 1 年生雑草を抑制することができず, その雑草害によるものである。

(2) 雨季 — 雨季では播種前K-233 10.0 kg/haあるいは12.0kg/haを土壌混和し、播種後3日にUS B 3153 2.0kg/ha 施用した区で2回手取区と同じ収量が得られた。ただし、K-223の後にbutachlorを施した場合は、1年生雑草害により収量が得られなかった。

以上、乾季・雨季を通じて、K-223 8.0kg/haを陸稲播種前に土壌混和処理することによって陸稲に被害なく、ハマスゲの発生を抑制することができる。

(Weed Research vol 16, No1 1976)

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和51年度桑園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和52年1月19日（水）

場 所：教育会館（千代田区霞が関3～2～3）

- ・昭和51年度林業関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和52年1月25日（火）

場 所：教育会館（千代田区霞が関3～2～3）

- ・昭和51年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和52年2月4日（金）

場 所：教育会館（予定）

- ・昭和51年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和52年2月16日（水）

場 所：教育会館（予定）

- ・昭和51年度茶園関係除草剤試験成績検討会

日 時：昭和52年2月17日（木）

場 所：静岡県茶業試験場（静岡県小笠郡菊川町倉沢1706）

- ・昭和51年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和52年2月25日（金）

場 所：岩手県職員共済会館（盛岡市）

編 集 後 記

不景気な師走がやってきた。ボーナスの袋の底も軽く、吹けば飛ぶような重さでは、サラリーマンもデパートの皮算用にはまりこむわけにはゆくまい。冷害を受けた農村でも、売る農産物もなく、今後の生活をどうやったらよいのか、途方にくれている。生活の糧を求めて、あちこちに出稼にゆけど、不景気のためか労賃も安く、生活するだけでやっと。マイナスの投資となった農薬や肥料代などに迫われ、農業に対する意欲を失っているという。この況作の原因が、チャンドラモーションによるものだとはいえ、農業が自然に頼る域を脱するため、農業技術者は

自然に負けない農業技術の向上に、今後も全力を傾中しなければなるまい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和51年12月発行

植調第10巻第9号

¥250（送料140）

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢 長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番